

■伊藤博文 初代首相。大日本帝国憲法をはじめ近代日本の諸制度を確立し君臨するも、韓国の独立運動家に暗殺された。

いとうひろぶみ

天保改革始・1841＝ 長州藩の貧農の家に生まれた。

阿部正弘首座1845＝ 4歳： のち父が伊藤家を継いで士分となる。

国定忠治疎・1850＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝12歳：

松下村塾・・1856＝15歳： 吉田松陰の松下村塾に学ぶ。

松陰は伊藤を評して「周旋家になりそうだ」と述べている。

安政の大獄・1859＝18歳：

桜田門外変・1860＝19歳：

高杉晋作らと尊王攘夷運動に挺身し、

8月18日政変 1863＝22歳： イギリスに留学したが、4国連合艦隊の長州藩攻撃計画を知って帰国、藩論の転換をはかるも失敗。

禁門の変・・1864＝23歳： 府の第1次長州征伐に対する藩首脳処置に反対して高杉らと挙兵、

薩摩藩士密航1865＝24歳： 藩内戦に勝利して藩の主導権を握り、幕府との武力対決に備え諸改革を進める中でとくに武器の輸入や他藩との交渉の任に当たる。

明治維新・・1868＝27歳： 外国事務掛として明治政府に出仕し、参与兼外国事務局判事、兵庫県知事を歴任。

戊辰戦争終・1869＝28歳： *陸奥宗光らとともに中央集権化構想を含む政治改革案を建白し、木戸孝允の下で開明派官僚として頭角を現し、大蔵少輔に転じ民部少輔を兼任、鉄道建設や貨幣制度改革を推進。

廃藩置県・・1871＝30歳： 遣外大使岩倉具視の副使となって米政に出張(岩倉使節団)、その間に同行した大久保利通の信任を得る。

明治6年政変 1873＝32歳： 帰国、政府内で問題化していた征韓論争では岩倉・大久保らを支持して征韓派を退け、その後の政府改造により参議兼工部卿に就任。

初の民間工場1875＝34歳： 前年の台湾出兵に反対し下野していた木戸の政府復帰のために大阪会議を斡旋し、漸次立憲政体に進むとの詔勅や、元老院・地方官会議の新設など、政治体制の一定の改革を実現。

西南戦争・・1877＝36歳：

大久保暗殺・1878＝37歳： *大久保の横死後、内務卿を継いで政府の中枢に位置し、

明治14年政変1881＝40歳： 明治14年の政変では進歩的な立憲政体を構想する参議大隈重信とそのグループを政府から追放するとともに、明治23年の議会開設を約束する詔勅を出して自由民権運動の鎮静化をはかった。

新体詩抄・・1882＝41歳： 渡欧してプロイセンの憲法ならびに諸制度の調査に当たり、帰国後、華族令の制定をはじめ立憲体制への転換に対応する一連の制度改革に着手。

内閣発足・・1885＝44歳： *内閣を創設して初代首相に就任し、薩長両藩出身者を中心に第1次内閣を組織。天津条約をまとめる。

帝国大学始・1886＝45歳：

議会開設に備えて官僚組織を整備し、市制、町村制など、地方名望家層中心の地方制度確立をはかるとともに、小学校令から帝国大学令に至る一連の学校令を制定して戦前における基本的な教育体系を整えた。

国民之友始・1887＝46歳： 外相井上馨の下で進めてきた条約改正に反対する声が政府内からおこり、さらに民間からも旧民権派などを中心に大同団結運動、三大事件建白運動が高まると、改正交渉を中止し、井上外相を辞任させるとともに、保安条例を公布して反政府運動を弾圧した。この間、伊藤首相と井上毅、伊東巳代治、金子堅太郎らの手によって大日本帝国憲法、皇室典範ならびに憲法付属の法典の起草が進められていたが、

初の特等条約1888＝47歳： それらの審議のため枢密院を新設し、伊藤は首相を辞任して議長に就任、各草案の審議を主導。

帝国憲法発布1889＝48歳： 伊藤の作品ともいべき大日本帝国憲法の発布に至る。

帝国議会始・1890＝49歳：

帝国議会の開会に当たって、初代の貴族院議長となり、山県有朋・松方正義両内閣が民党からの攻撃に直面した議会の運営に助言を与え、

大本教・・・1892＝51歳：

自ら政党组成も企図、同年組織した第2次内閣は閣僚に元勳層を網羅する強力内閣として民党と対抗、

郡司千島探検1893＝52歳：

懸案の軍艦建造費を詔勅によって実現。さらにこの内閣の条約改正に反対する対外硬運動の高まりに対しては再度衆議院を解散して交渉を続け、

日清戦争始・1894＝53歳：

日清戦争開戦の直前に日英通商航海条約を調印し、法権と一部税権の回復に成功した。また日清戦争に際しては強引な開戦外交を展開し、一応挙国一致の態勢による戦争指導に成功するが、

日清戦争終・1895＝54歳：

日清講和条約の調印直後に三国干渉をうけて遼東半島の還付を余儀なくされ、再び対外硬派の批判を受けることになったため、軍備拡張を中心とする戦後経営の実現が必至の課題となり、第9議会では自由党の支持をとりつけて膨張した予算案ならびに関連諸法案を通過させ、閉会後には自由党総理板垣退助の入閣を実現した。さらに進歩党の指導者大隈重信を入閣させて挙国一致内閣をめざしたが、閣内不統一となって、

白馬会・・・1896＝55歳：

総辞職。

子規句歌革新1898＝57歳：

第3次内閣を組織、自由・進歩両党との提携に失敗、第12議会に提出した地租増徴法案が両党の反対で否決されたため衆議院解散。政党组成に乗り出すが、山県らの強い反対にあって挫折し、総辞職。

ビ7/国産化・1900＝59歳：

その後、清国を遊歴して帝国主義諸列強によって租借地や利権が獲得されている実態を直視して帰国、国内体制の強化を緊急の課題であると認識し、政党组成に着手、

田中正造直訴1901＝60歳：

伊藤系官僚と憲政党を中心に立憲政友会を創立して総裁に就任。政友会幹部を閣僚として第4次内閣を組織したが、第15議会に提出した増税案がその政党内閣的な色彩に反発する貴族院各派の反対に直面し天皇の詔勅によってかろうじてその難局を切り抜けた。しかし次年度の財政政策をめぐる閣内対立し、

日比谷公園・1903＝62歳：

総辞職。これ以後、政友会総裁として桂太郎内閣との折衝を任とする一方、元老として日露協商の可能性を打診するため訪露するが、政府の推進する日英同盟の交渉が先行して予期した成果は得られなかった。また、野党化した政友会と桂内閣との利害対立が表面化し、伊藤が推進した妥協案はかえって党内の紛糾を増幅することになり、

日露戦争始・1904＝63歳：

総裁を辞任して枢密院議長に就任。

日露戦争終・1905＝64歳：

開戦前の対露交渉から講和に至るまで日露戦争の全局面を元老の一人として最重要政策の決定に関与し、

韓国反日暴動1907＝66歳：

戦後には新設の韓国統監府の初代統監となり、韓国の保護国化を進め、

伊藤博文暗殺1909＝68歳：

ハグ密使事件を契機に皇帝を譲位させ、内政権を大幅に削減するとともに軍隊を解散した。しかし朝鮮民衆による義兵闘争は高まり、日本政府内にも併合の早期強行論が台頭する中で、

伊藤博文暗殺1909＝68歳：

*統監を辞任、枢密院議長に復帰。同年日露関係の調整のためロシアの蔵相コロフツォフと会談すべく渡満、ハルビン駅に到着直後に、韓国の独立運動家安重根に暗殺された。

「日本史を変えた人物200人」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、